

産学官連携による 地域とともにある学校づくり

発 表 者 東庄町学校運営協議会 会長 市野 敬介
東庄町教育委員会 指導主事 久保木 祐一

- 1 東庄町について**
- 2 東庄町学校運営協議会について**
- 3 東庄町学校運営協議会の
活動内容（令和5年～）**

1 東庄町について

東庄町

とうのしょう まち

人口： 約1万3,000人

面積： 46.25km²

千葉県北東部香取郡にある自然豊かで歴史ある町

利根川の恵み 東日本一の早場米の産地

イチゴや小カブの栽培も盛ん



東庄町イメージキャラクター
コジュリンくん



2 東庄町学校運営協議会について

園・学校名	児童 生徒数	学校運営協議会			地域学校 協働活動 推進員数
		設置 年度	委員数	年間開催 回数	
こじゅりんこども園	5才児 55名	令和 5年度	14名	3回	1名
東庄小学校	461名				
東庄中学校	243名				

教育目標

こども園 明るく 元気いっぱい 素直な子

小学校 心豊かでたくましく すすんで学ぶ東庄の子

中学校 情操豊かで創造力があり、未来を切り拓く力のある生徒の育成

2 東庄町学校運営協議会について

学校運営協議会の概要

委員の構成

令和7年度委員	14名
学識経験を有するもの	1名
地域住民	4名
こども園保護者	1名
小学校保護者	1名
中学校保護者	1名
こども園 園長	1名
小学校 校長	1名
中学校 校長	1名
教育委員会が適当と認めるもの	2名
地域学校協働推進員	1名

これまでの主な議題

東庄町の子どもたちのためにできることは何か

学校の教員のためにできることは何か

学力の向上に向けて地域・家庭・学校
それぞれにできることは何か

SNSの使い方について子どもと大人で
アイデアを出し合おう

2 東庄町学校運営協議会について

学校・地域の特徴

- 1こども園・1小学校・1中学校で地域連携。
- 利根川下流の豊かな自然環境、農業が主産業。
- 水と緑を生かしたレジャー、自然観察、農業体験など豊富な地域資源。
- 歴史の物語に裏付けられた祭りなどの伝統行事は住民の誇り。

- △少子高齢化の進行
- △人口減少が進む
- △商業施設が少ない



- 地域住民による地域活性化対策 「オンラア未来会議」
- 移住者の積極的な受け入れ 「地域おこし協力隊」
- 子育て支援・ファミリーサポート（多世代交流の充実）
- ドローンをまちづくりに活用（商業、災害支援、教育）

東庄町学校運営協議会の特徴

町のコンパクトさをメリットとしてとらえ、町のこどもたちを産官学が連携して支えるとともに、学校と町の課題について議論し、子どもたちを将来の「町の創り手」として育成していくことを目指す。

産官学の連携をコーディネートし、町の中からの視点だけでなく、外からの視点も取り入れることを目指し、NPO法人『企業教育研究会』の市野 敬介 氏が 学校運営協議会の会長として協議会の運営や関連する事業に携わる。

3 東庄町学校運営協議会の活動

さて、これから実現していきましょうか…

- ・スマホを使った東庄町の写真コンテストを開催して、Instagramアカウントに掲載してみんなでフォローする
- ・東庄町に関するゲームを作って、遊んでもらえるようにする
- ・東庄町に関する検索すると、ポイントがもらえて町内で使える
- ・高齢者のSNSトラブルを中学生や高校生が見守る
- ・大人や高齢者向けのスマホ教室の先生を中学生が行う
- ・勉強アプリと東庄町をコラボレーションさせる

3 東庄町学校運営協議会の活動

中学生発「東庄町のためになる」ネット・SNSの使い方案

・2025年5月1日に東庄中学校の1年生が考えた

学校運営協議会として 東庄町のためのネット・SNSの使い方

良い、ダメをはっきり
ダメだった時にどうするか

社会を生きる中で
リスクはみんなが
認識する

（つき合い方）

相手がいない
不安に対して
一方で誰かの役に
立つことが大事

大人も使いすぎ
やめ時が難しいので
大人も子供も一緒に
ルールをつくる
・保護者へ今日のことも
お知らせしたい

・高齢者も
中高生が見える
・スマホ教室の先生は
中学生がやれる

（活用方法）

・スマホを使った
東庄町の写真コンテスト

・Instagram
（芝桜など）
みんながスマホ
広報動画など

・東庄関連で検索
するとポイントもらえて
街で使える

・勉強アプリ
クラブ
東庄町

・東庄に関する
ゲームを作ってみる

健全な
出会い
の仕掛け方

誰かのために
「ありがとう」を増やす

3 東庄町学校運営協議会の活動

学校運営協議会長として意識していること

- (1) 熟議の場は「楽しい空間」
- (2) 様々な立場の「本音を引き出す」
- (3) 主軸は常に「子供の学びや育ち」
- (4) できることから「具体的な活動や行動に」
- (5) 東庄町は「誰もが教育に貢献する社会」



3 東庄町学校運営協議会の活動

熟議の「問い」の設計

- ・東庄町の大人に「問い」を立てて「探究」している感覚
- ・毎回の熟議テーマは教育委員会事務局と相談して決定
- ・前提を共有するための「問い」を入れてから本題を考える

例：学校の先生の働き方について考える

Q1 教員・職員の（^o^）はどんな時？

Q2 教員・職員の（^o^）を増やすためにできることは？

例：学力の向上策について考える

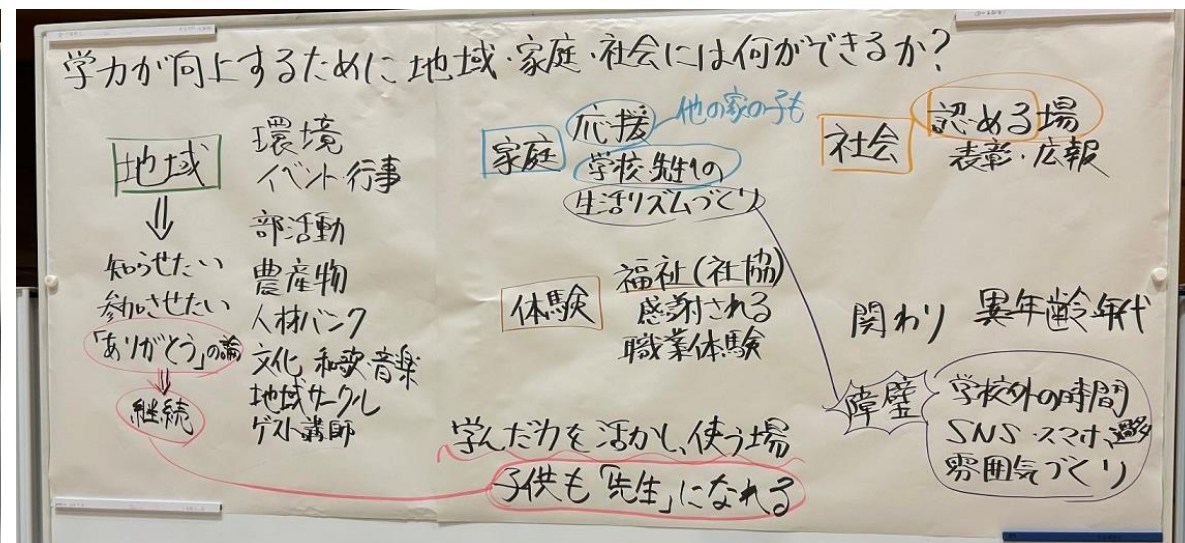
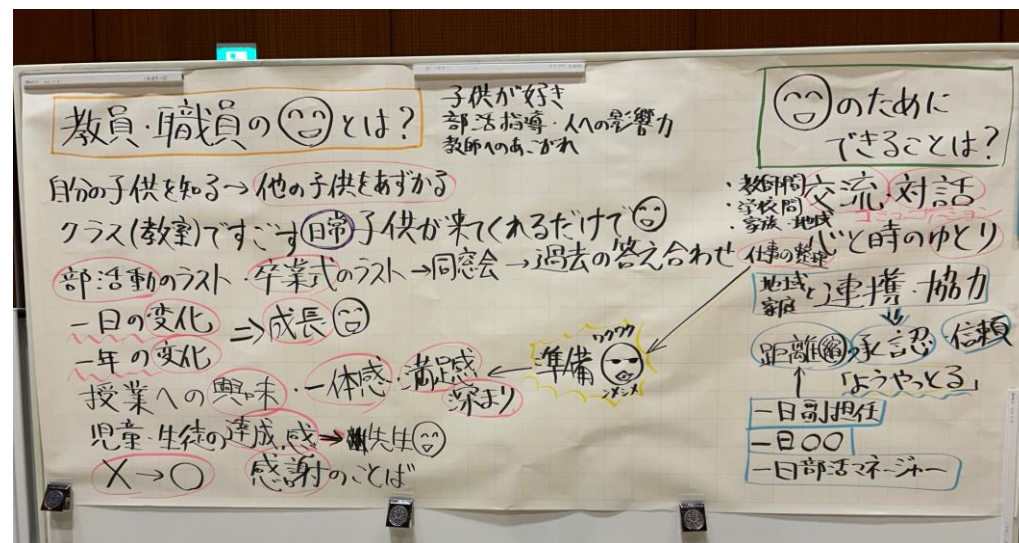
Q1 「学力が向上する」とはどのような状態？

Q2 「学力が向上する」ためにできることは？

3 東庄町学校運営協議会の活動

熟議の「まとめ」の設計

- ・委員やオブザーバーのみなさまの対話を最優先
- ・会長の役割は 司会者 兼 書記 兼 コメンテーター
- ・その場で出たことは模造紙に書いてまとめる



- ・現在のところ、活発に意見が出て面白い
- ・そして実現したいことやみんなの共通認識が記録に残る

3 東庄町学校運営協議会の活動

地域内ですぐ連携

- ・他地域で高校の家庭科の授業に乳児と保護者が参加して、生徒が乳児を抱いてみる体験授業があることを会長が紹介。
（生きた教材＆保護者間の交流・孤立対策）
- ・学校運営協議会の直後に中学校と育児関係者が話を進め、東庄中学校で授業が実現。



3 東庄町学校運営協議会の活動

地域外交流（郡上市）の実践

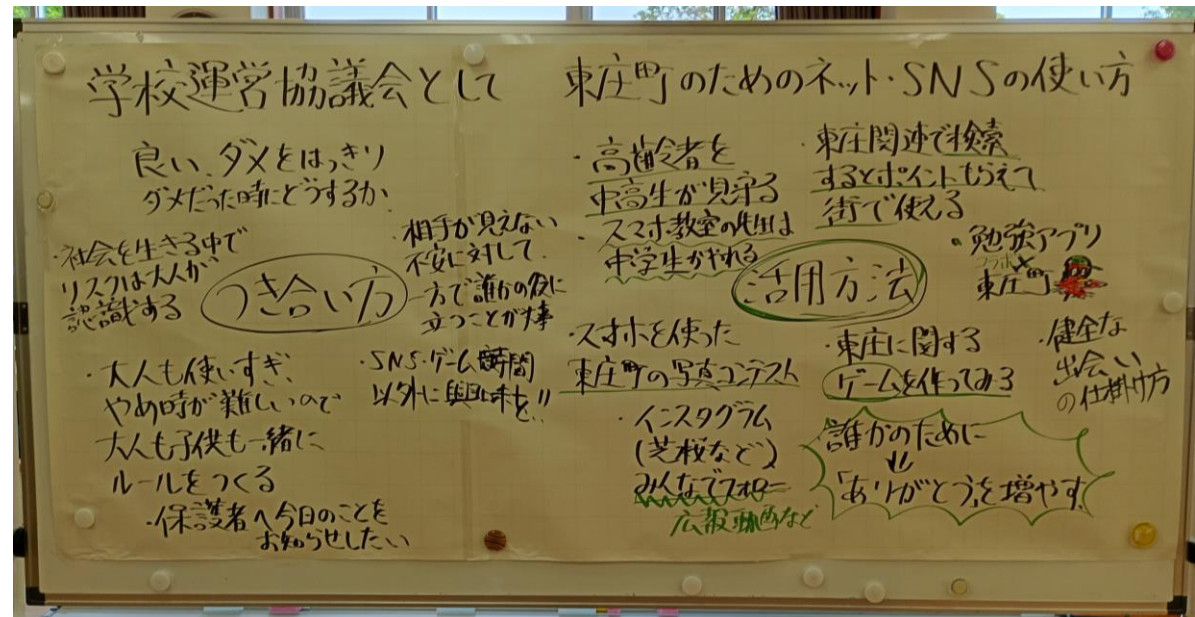
- ・2024年8月、東庄町と歴史上で縁のある岐阜県郡上市立大和小学校との交流を目指し現地を訪問。
- ・2025年2月、両校の小学3年生が地域を調べ発表したことを、オンラインで双方の学校に向けて発表しあう交流を実現。
- ・国際ドローン協会が空撮で東庄町の地形・風景を生配信。



3 東庄町学校運営協議会の活動

それ中学生にやらせてください

- ・2025年2月の「学力の向上」に関する熟議で、児童・生徒のSNS等の使い方に関する心配や懸念が浮上した。
- ・2025年5月の 学校運営協議会を 東庄中学校で開催。中学1年生に対し「大人の懸念を解消する意見」や「東庄町のためになる使い方」を聞いた後、大人が熟議した。



3 東庄町学校運営協議会の活動

学力テストじゃ測れない 非認知能力の変容測定

・一般社団法人次世代教育・産官学民連携機構が学校向けに提供する非認知能力の定量的な変容測定ツール「次世代人材ルーブリック」を導入開始。学校教育目標から、自己評価項目を選択。

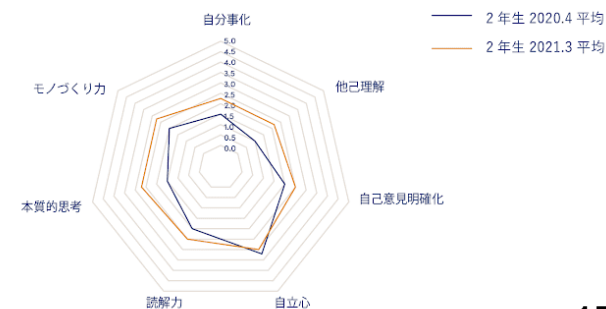
- ・「自分事化」「好奇心」「他己理解」
「シナジー創出」「自己意見明確化」
「失敗を恐れない姿勢」「表現力」
「本質的思考（批判的思考）」
「デザイン思考」「マネジメント力」

の10項目、小学5年生～中学3年生が継続的に回答して変容を調査。協議会で今後報告予定。

- ・「次世代人材ルーブリック」に関する詳細は、
<https://www.cie-jp.org/rubric>



探究プログラム実施前後での成長差異



3 東庄町学校運営協議会の活動

産官学連携への展望 2040年に向けて

- ・東庄町や地域のためになる「問い」を大人も子供も立てる。
そこに町内外の様々な人が協力することが日常に。
- ・学校教育、家庭教育・地域教育のアイデアが、
熟議後の模造紙 にストックされている。
3年目の今年度も、実行できることから一つずつ形に。
- ・町の外から教育に協力いただく人を
「東庄町のファン」そして「東庄町に携わる人のファン」に。
- ・学校教育における学びの主語は「子供」に。
学校内外における学びの主語は「みんな」に。
- ・中学卒業時には「東庄町ふるさと大使」を名乗れるように。